

乳牛管理の省力化による労働力不足の解消と経営規模拡大 ～搾乳ロボット等の先進技術の活用～

(福岡県：永田牧場)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
○					労働環境の改善

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地：福岡県久留米市
- ・代表者：永田 弘
- ・飼養頭数：乳用牛170頭（経産牛）
- ・労働者数：7名（経営主、後継者とその妻及び従業員4名（常時雇用1名、パート3名））

<取組について>

- 経緯
 - ・久留米市は、県内最大の農業産出額を誇り、地域の水田や河川敷草地等の豊富な飼料生産基盤を背景にした、県内でも主要な酪農地帯。一方、酪農業はとりわけ労働負担が大きいことから、さらなる飼養頭数増加・規模拡大が困難であった。
 - ・このため、労働負担の軽減等を目的に、搾乳牛舎の整備とともに、搾乳ロボットや自動給餌機、自動環境制御システムといった先進技術を導入し、高度な乳牛管理を実施。

- 概要
 - ・規模拡大に向け、搾乳牛舎を新たに整備しつつ、搾乳作業の労働負担軽減のため、令和元年5月に搾乳ロボット2台、自動給餌機1台を導入。
 - ・併せて、自動環境制御システムを整備。

- 成果
 - ・先進技術の導入により、搾乳や給餌に係る労働時間が軽減。

<先進技術導入前後の労働時間 ※搾乳牛1頭当り>

導入前 162 時間/年 (H28)
導入後 89 時間/年 (R2)

- ・飼養管理の負担が軽減したことにより、収益性の向上を目的とし、着実に増頭が図られている。

<飼養頭数の推移> ※各年2月1日現在

平成30年 73頭
令和元年 83頭
令和2年 145頭
令和3年 170頭
令和4年 170頭



搾乳ロボット



自動環境制御システムで作動する換気扇